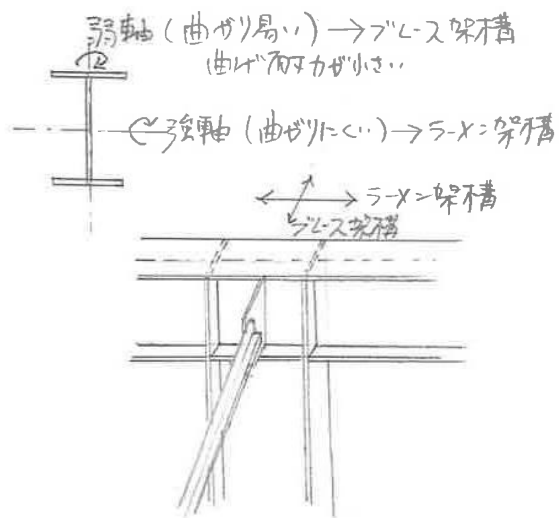


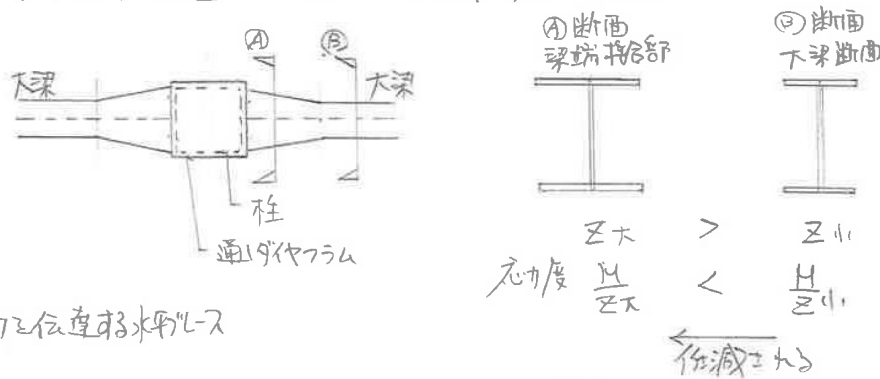
# 平成27年No.15 鉄骨造の設計

1. 柱にH形鋼を用いる場合の構造計画 → 強軸方向をラ-X=架構, 弱軸方向をブル-ス架構とすることによる
2. 水平ハンチ設置による梁端接合部の応力低減 → 梁端部の断面が増え, 接合部に作用する応力度を減らすことが出来る
3. 床面の水平せん断力を伝達するための水平ブル-ス → 小梁とブル-スにオトラスが形成されるので小梁は軸力を受ける部材として検討する
4. 露出柱脚の設計 → ア-ボルトの伸びを評価した回転バネを考慮した応力(曲げモーメント, せん断力, 軸力)に対して設計する

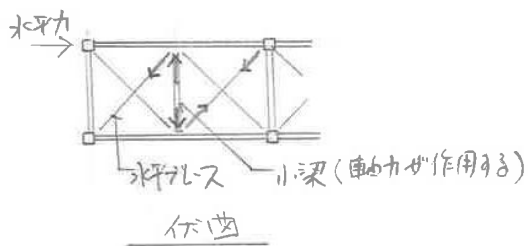
○ 柱にH形鋼を用いる場合の構造計画



○ 水平ハンチ設置による梁端接合部の応力低減



○ (床)の水平せん断力を伝達する水平ブル-ス



○ 露出柱脚の設計

